

# 令和4年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考			
1 基本的な生活習慣の確立を基盤とし、生徒の自己調整力を高めることにより、自立した学習習慣の確立を図る。	①	本校の授業心得を周知し、授業規律の徹底を図るため、校内外の挨拶を積極的に励行する。また朝礼や授業開始時にロッカーの上や机の周りを点検し、乱れがあれば片付けさせる。	学年 教務 生徒指導 生徒会指導 保健管理	自ら積極的な挨拶を実践している生徒の割合は高いが、しっかりした挨拶には十分に至っていない。教室・実習棟は整理された学習環境であると感じている生徒・教員の割合が、依然として9割にとどまっている。今後も専門教育の場として整理整頓の意識を強化し、きめ細かく指導する必要がある。	【成果指標】 生徒および教員が自ら積極的な挨拶を励行している。	毎日、自ら積極的に挨拶することを心がけ、実行している生徒および教員の割合が  A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (7月と12月に生徒・教員アンケートを実施)	教員	生徒	
				【満足度指標】 学びの場および指導の場は整理整頓され、学習に相応しい環境となっている。	私たちの教室は整理整頓されており、学習に相応しい環境であると感じる生徒および教員の割合が  A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (7月と12月に生徒・教員アンケートを実施)	教員	生徒		
	②	スキルアップタイムを活用した学習を通して、将来の産業人として必要な基礎学力の定着を図る。	教務	全ての生徒が学力向上を実感できるよう、取り組み内容を吟味し、教育支援システムの改善をはかる必要がある。	【満足度指標】 国語、数学、英語の基礎的内容を理解し、以前より基礎学力が向上している。	基礎的な内容について学力が向上したと感じる生徒の割合が  A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (7月と12月に生徒アンケートを実施)		生徒	
	③	集会やWeb等による定期的な指導を通して、規範意識の高揚と校則の遵守を身につけさせる。	生徒指導 学年	「容儀」「携帯電話」や「違反行動」について、規範意識が薄い生徒が一部いる。規則の必要性を説き、粘り強い指導が必要な現状である。	【成果指標】 生徒自身が校則を主体的に守る意識が向上し、指導件数が昨年度より減少した。	昨年度と比べ、指導件数が  A 20%以上減少 B 10%以上減少 C 10%未満減少 D 増加した	生徒指導課の指導件数で判断する。 (昨年度比較)	教員		

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
2 情報共有社会を見据えたGIGAスクール構想が進展する中、「主体的・対話的で深い学び」の実践をとおして、活用できる知識とスキルを育み、地域に期待される人材を育成する。	① 学習意欲を喚起する授業の工夫と一人一人が主体的に取り組む学習指導を推進する。	教務	配備された1人1台の端末を効果的に活用し、学びの質の向上を図る必要性が高まっている。	【努力指標】 生徒が主体的に参加する授業を目指し、授業改善に取り組んでいる。	Chromebookの活用や探究活動を取り入れて授業の工夫を行っている教員の割合が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、授業改善の状況、指導法を検討する。 (7月と12月に教員アンケートを実施)	教員		
	② 質問に対して、根拠や理由を示して答えさせることで深い学びにつなげる。	各教科	生徒が学びの実感を持てるよう、更なる授業改善を進めていくことが望まれる。	【満足度指標】 根拠や理由を示して答えることで、生徒自身が学習内容について力がついたと感じている。	学習内容について力がついたと感じている生徒および教員の割合が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、授業改善の状況、指導法を検討する。 (7月と12月に生徒・教員アンケートを実施)	教員	生徒	
	③ インターンシップおよび長期企業実習(デュアルシステム)を通して、主体的なコミュニケーションで問題を解決する能力を高める。	進路指導 工業科 商業科	大部分の生徒が、積極的なコミュニケーションの大切さを実感できたと回答した。社会人に必要な資質・能力を身につける機会として、今後も大切にしていきたい。	【満足度指標】 実習を通して、周囲と積極的にコミュニケーションをとりながら主体的に行動できたと感じている。	インターンシップ・デュアルシステムは、主体的なコミュニケーション能力の向上に役だったと感じている生徒・保護者の割合が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (12月に生徒・保護者アンケートを実施)		生徒	保護者
	④ 生徒手帳や資格カレンダーを活用し、計画的、主体的に資格取得に取り組む力を育成する。	教務 工業科 商業科	検定試験前の指導を工夫し、資格を取得する目的等を理解させて、自主的・主体的な学習に繋げていくことが望まれる。	【努力指標】 生徒が主体的に取り組むよう、授業改善から取り組み、資格取得に向けて各自に目標を設定させる。	資格取得に向けて計画的に取り組んだと思う生徒・保護者の割合が  A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 (12月に生徒・保護者アンケートを実施)		生徒	保護者

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
3 学校の教育活動全体をとおして、将来の産業人として求められる人間力を磨き、他を思いやる人間性を涵養する。	① 生徒一人ひとりの生徒会活動への参加意識を高め、行事を通して人間的成長を図る。	生徒会指導	生徒一人ひとりの生徒会活動への参画意識が高まり、行事を通じて人間的成長が確認できた。より自主的な行事づくりを行い、さらに積極性を高めていきたい。	【満足度指標】 自らの役割を見つけ積極的な行動により、責任を果たすことができている。	生徒会行事（聖実祭、ホーム対抗行事）で自ら積極的に取り組んだ生徒の割合が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、行事の運営方法を検討する。 （12月に生徒アンケートを実施）		生徒	
	② ボランティア活動に積極的に参加することで、奉仕の精神や郷土愛を育む。	生徒会指導	コロナ禍においてボランティア実施が難しい状況であったが、地域の期待に応えつつ、生徒の自主性を鍛え、自己有用感の醸成に努めていきたい。	【成果指標】 地域のボランティア活動に積極的に参加している。	年間ボランティア活動に、2回以上参加した生徒の割合が  A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合は、対策を検討する。 （12月に生徒アンケートを実施）		生徒	
	③ いじめや不登校の早期発見・早期対応に向け、教員間での情報共有と連携を図る。	教育相談 生徒指導 学年	教員相互の情報交換により、「いじめと感じた事案」の迅速な対応ができた。SNS関連の問題がいじめ等に発展しないよう事前指導を継続していく必要がある。	【努力指標】 生徒に寄り添い、担任や関係職員と情報交換を図り、いじめや不登校の未然防止・早期発見に取り組んでいる。	教職員の情報交換により、問題の未然防止や早期発見に努めている教員の割合が  A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は、新たな指導方法を検討、実施する。 （7月と12月に教員アンケートを実施）		教員	
4 学校に対する理解を深めるため、Society 5.0時代に役立つAI・IoT教育やデジタルコンテンツの作成など、本校における特徴的な教育活動の情報を積極的に発信する。	① 学校だより、学校Webページ、学校懇談会、報道等を活用し、保護者や地域等への情報提供を充実させる。	教頭 教務 総務	昨年度、保護者の82%から学校Webページについて肯定的な評価を得たが、本校の活動に対する理解が深まって魅力が伝わるよう、情報提供のあり方を工夫する。	【満足度指標】 情報発信によって本校の教育活動についてよく理解できている。	情報発信によって本校の教育活動について、よく理解できると回答した保護者の割合が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、提供する情報内容について検討する。 （7月と12月に保護者アンケートを実施）		保護者	

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
5	ワーク・ライフ・バランスを改善するため、校務の効率化・平準化を実現し、時間外勤務の縮減を目指す。	①	時間管理の意識を高め、日頃から生徒とのコミュニケーションをとる時間を確保することに努める。	教務 学年 生徒会指導 生徒指導 進路指導	教員は、時間管理の意識を保ちながら業務を行っている。 見通しを持って業務に取り組み、更なる多忙化改善に努めていく必要がある。	【努力指標】 教員は生徒と向き合う時間を確保するよう努めている。	採点業務省力化ソフト等の活用で業務の効率化を意識し、生徒と向き合う時間を確保するよう努めている教員の割合が  A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合、対策を検討する。 (7月と12月に教員アンケートを実施)	教員
		②	若手教員とのOJTを通し、探す無駄、待たされる無駄、やり過ぎる無駄を減らすことに努める。	教務 生徒会指導 生徒指導 進路指導	年度初めの業務の引き継ぎがうまくいかず、手探りで仕事を進めることが多い。 きちんとしたメモやマニュアル等の用意、連絡が十分とは言えない。	【努力指標】 次年度の担当者へ引き継ぐことを前提に、メモやマニュアル等を残しながら仕事をしている。	次年度へ業務を引き継ぐことを前提に置き、メモやマニュアル等を残しながら仕事をしている教員の割合が  A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合、新たな方法を検討、実施する。 (7月と12月に教員アンケートを実施)	教員
		③	部活動の活動日はスポーツ科学等の根拠に基づいて設定する。	生徒会指導 各顧問	新型コロナウイルスの影響で活動に制限がかかる中、限られた時間内で効果的な練習やトレーニングを継続していた。	【努力指標】 生徒の実態に合わせて休養日を効果的に設定し、部活動の活性化と技術向上を目指している。	効果的な活動日を設定して、毎月の部活動計画を立てている教員の割合が  A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合、部活動のあり方を検討する。 (7月と12月に教員アンケートを実施)	教員